

只見町の豊かな自然環境を守るために

「只見町の野生動物植物を保護する条例」制定・施行

只見町は平成26年6月、人と自然との共生を目指すユネスコエコパークに登録となり、今回、町の豊かな自然環境とその重要な構成要素である野生動物植物とその生育、生息場所の保護・保全を図り、地域の持続可能な発展を目指すことを目的として、「只見町の野生動物植物を保護する条例」を制定し、今年の6月24日から施行となりました。



▲町内で発見されたタダミハコネサンショウウオ



▲フクジュソウ

これは、野生動物植物の保護・保全に関する法的規制が十分に整備されて

おらず、これまででも心無い人による町内での山野草の盗掘、ライトトラップによる昆虫採集が報告され、移行地域(只見町管内)を中心に只見ユネスコエコパーク域内で守るべき野生動物植物とその自生地、生息地について保護・保全を図る措置の必要性があり、町民の方々からもそうしたことに対応できる条例が求められてきたことにあります。

今後は町、町民・事業者、来町者が一体となり、豊かな自然環境の保護・



▲山々に囲まれた豊かな自然環境を有する只見町

保全を図っていきます。

【条例の主な内容】

町は自然環境等の保全に関する基本的、総合的な施策を策定し、町が行う各種事業において最大限に野生動物植物を保護・保全し、町民、事業者および来町者に対して野生動物植物の保全に関する重要性の理解への啓発に努める。

町民、事業者および来町者は、町内の野生動物植物の存在価値を理解し、その保護・保全に努め、町の実施する施策に協力する。

また、野生動物植物の保護・保全のために、絶滅危惧種へ悪影響を与える活動は控えることや町が特に保護・保全すべきと判断した野生動物植物を町指定貴重野生動物植物として指定できるほか、ライトトラップなど野生動物植物を大量に捕獲する行為は原則禁止する。

・・・などが定められています。

自然環境や野生動物植物の存在によつて私たちの日々の生活は支えられています。只見町の豊かで貴重な自然環境や野生動物植物を守り、町の発展に繋がるようご協力をお願い致します。

町内小・中学生の夏休み勉強会

サマースクール開催

町教育委員会が主催する町内小・中学生を対象とした夏休み勉強会「サマースクール」が、8月17日から21日の5日間、各振興センターや小学校などで行われました。

参加した児童・生徒たちは、夏休みの宿題や振り返り学習、勉強方法などを大学生から指導を受けました。勉強を教えたのは教員を目指す福島大学生12名や只見高校生3名で、学習指導のほかゲームやクイズを児童・生徒と一緒に楽しみました。

福島大学生からは「教育実習前の良い経験になり、へき地の学校について学ぶことができるので、逆に勉強させて頂いています」と笑顔で話していました。



▲大学生から学習指導を受ける児童たち

歌と踊りのチャリティショーで
只見線応援の為に寄付

8月5日、夢広場(大倉地区)の角田初美さんが役場を訪れ、只見線応援寄付金「305,516円」を渡部総合政策課長へ手渡されました。

この寄付金は、7月24日に埼玉県八潮市民文化会館(メセナ)において夢広場が主催し行われた「第4回頑張ろう東日本!只見線応援チャリティショー」で、チケットの売り上げの一部と、来場者の寄付金を集めたものです。プロの歌手などが歌と踊りを披露し、会場には約500名が訪れました。会場一角では只見線の写真を展示し、来場者へ只見線のPRも行われました。寄付では、夢広場の皆さんの只見線に対する思いを受け取り、早期全線開通へ向け活用していきます。



▲寄付金を渡す夢広場の角田初美さん(右)と受けとる渡部総合政策課長

地域課題解決型キャリア教育
「地域と高校をつなぐ講演会」開催

高校生の学力向上と地域再生の一体的展開を提唱している、岐阜県立可児高校教諭の浦崎太郎先生の講演会が8月9日、只見振興センターで行われました。主催は只見高校振興対策会議で、関係者23名が参加しました。

講演会では、高校生に変化をもたらせた「アクティブラーニング」という、高校と地域が協働で地域課題を解決し学ぶ教育方法について、可児高校を事例に説明されました。

高校生が地域の大人と交流することで、活きた大人の考えや社会経験が学べ、自分のスキルを地元で活かす考えが育ち、地域が再生していくというものです。今年度から町でも公営塾で実践する予定です。



▲アクティブラーニングの効果は、生徒の学習意欲向上や面接試験にあると説明する浦崎先生

県税完納4年連続
只見町が県知事より感謝状受賞

只見町の個人県民税の納税が、平成24年度から平成27年度までの4年間連続完納という功績が認められ、8月10日に役場町長室において表彰式が行われ、感謝状の贈呈を受けました。

表彰式では、大谷英明南会津地方振興局長から目黒町長に感謝状が手渡され、振興局長は「4年連続の完納は素晴らしい。今後も記録を延ばし、引き続き県税への協力をお願いしたい」と述べられ、町長は「この記録は町民一人一人が日頃から高い納税意識を持っているからこそ無し得たものと深く感謝します」と述べました。今後も只見町の完納記録が継続できるよう、皆さまのご協力をお願い致します。



▲大谷南会津地方振興局長(左)から感謝状を受け取る目黒町長

只見線をみんなで祝い
只見線ハースデイイベント開催

8月20日、JR只見駅で只見線ハースデイイベントが行われました。

このイベントは、20日に只見駅が開業53周年を迎えたこと、そして29日に只見線全線開通45周年を迎えたことから只見町観光まちづくり協会が主催で開催しました。

イベントでは、只見町と金山町の公式キャラクター「ブナりんかぼまる」が登場し、只見駅で只見線のお見送りをしました。また、8月に45歳、53歳になりました。また、南郷トマトジュースや只見線Tシャツなどが先着でプレゼントされました。そして、只見駅内では只見線への祝いメッセージが飾られ、只見駅はお祝いムード一色となりました。



▲ブナりん・かぼまると一緒に只見線を見送る皆さん

只見町の現地視察と懇談会を実施

8月18日、内堀雅雄県知事が只見町を訪れ、現地視察と目黒町長との懇談会が行われました。

現地視察では亀岡多目的活性化広場を訪れ、国の地方創生事業で認定された交流型観光推進事業で整備される「サンドバレーコート」の予定地を見学しました。コートの砂は只見湖周辺の砂を活用しサンドバレー実業団監修で公式コートの品質を目指すこと、敷地内にトレイラーハウスを設置し物販・カフェなど交流の場を創出すること、スポーツパーク構想などについて、町長から知事へ説明しました。

その後、季の郷湯ら里で意見交換が行われました。町長からのユネスコエコパークを軸とした町づくりや、ほんもの体験ができる滞在型観光、スポーツの拠点づくり、そしてJRR只見線の活用についての説明に対し、知



▲内堀県知事(左)へサンドバレーコートの説明をする目黒町長



▲只見線の復興についても確認しあった懇談会

事は「町の骨格がしっかりとっており、目黒町長の熱意がしっかりと伝わりました。特にサンドバレーコート事業は、他にはない山の中にあるのが特徴で、復興応援プロジェクト」絆で関わった全日本女子バレー監督の眞鍋さんのバレー教室がきっかけというストーリー性も素晴らしく、只見町の良さが分かります」と感想を述べられました。

町長から「ユネスコエコパークを軸とした町づくりについて、県との連携・支援を賜りたい」と伝えると、知事からも「県も只見町とスクラムを組んで取り組んでいきます」と協力への意向が示され、堅い握手で懇談会が終了しました。

「農業委員会」の選任と「農地利用最適化推進委員」の新設

任期満了に伴い改選された只見町農業委員会は8月12日に第1回総会を開催し、会長に矢澤照嘉委員、職務代理者に三瓶新一郎委員と飯塚春夫委員を選任しました。委員会の任期は平成28年8月12日から平成31年8月11日までの3年間となります。

また、農業委員会法改正に伴い、新たに「農地利用最適化推進委員」が設置され、各担当区域における農地利用の最適化を目指します。

農業委員会名簿	議席	氏名	住所	備考
	1	三瓶 新一郎	蒲生	職務代理者
	2	齋藤 聡	亀岡	認定農業者・新任
	3	山内 征久	梁取	認定農業者・新任
	4	湯田 次雄	布沢	新任
	5	星 和 榮	塩ノ岐	認定農業者・新任
	6	佐藤 泉太	叶津	認定農業者・新任
	7	渡部 理一	福井	新任
	8	小沼 一弘	只見	
	9	渡部 周一郎	小川	新任
	10	飯塚 春夫	大倉	職務代理者
11	矢澤 照嘉	黒谷	会長	

農地利用最適化推進委員名簿	氏名	住所	担当区域
	五十嵐 義博	只見	石伏・只見・館ノ川・黒沢・叶津・八木沢
	矢沢 友一	塩沢	蒲生・寄岩・塩沢・十島
	佐藤 孝輝	小林	小林・大倉
	馬場 正一	坂田	坂田・布沢
	矢沢 達也	二軒在家	梁取・二軒在家・塩ノ岐
	星 耕一	福井	檜戸・小川・下福井・上福井
本名 一貴	黒谷	黒谷	
目黒 道男	熊倉	長浜・荒島・熊倉・亀岡・深沢	

只見町と新潟県三条市の交流事業
（株）スノーピーク社長による講演会を開催

国道289号八十里越工事区間の開通を見据えた新潟県三条市との八十里越交流事業として、オートキャンプのパイオニアメーカー（株）スノーピーク（三条市）山井太社長の講演会が8月27日、季の郷湯ら里で行われました。只見町と県南会津地方振興局の主催で、約200名が来場しました。

講演会は「人と自然をつなぐ空間提案」をテーマに、キャンプで人と自然を繋ぐ内容を話いただきました。アウトドアは先進国で需要が多く、ストレス社会で生きる人がアウトドアを望み、只見町は「自然に癒し」という財産を持つっており、それを活用したアウトドア提案がなされました。特に「グラン



▲「自然首都・只見」でのアウトドアを提案する山井社長

ピング（贅沢なキャンプ）」の提案では、只見町でしか成立しない「景色・食・サービス」を最上級の形で提供する新しい切り口を紹介いただきました。

講演会最後には、来場者から多くの質問が飛び交い、八十里越交流事業の第一歩として大盛況で幕を閉じました。今後、只見町はユネスコエコパークのフィールド活用の一つとしてアウトドア

で人と自然を繋ぎ交流人口拡大を目指します。また、会津工場ではスノーピークの「ダッチオーブン」を造る技術連携が始まっています。会津工場の鋳物技術と、ものづくりのまち三条市の経済交流が今後ますます盛んになるとを期待します。



▲会津工場の鈴木社長（右上）と技術連携について対談する山井社長（左上）

只見町明和婦人会
南会津建設事務所より感謝状

8月23日、只見町役場において道路などの愛護に功績のあった団体・個人に対する感謝状の贈呈式が行われ、南会津建設事務所から明和婦人会に感謝状が贈られました。

これは、通学・通勤など日常利用している公共道路に対し、明和婦人会の方々が長年に渡り、フラワールラインなど地区内の道路の美化に努め、快適で美しい道路環境づくりと、道路愛護意識の向上に貢献されたとして感謝状が贈られたものです。

贈呈式で佐藤善治南会津建設事務所長は「長年の美化活動に感謝申し上げます。今後も県とともに美化活動にご協力をお願いしたい」と挨拶されました。



▲佐藤所長（右）から感謝状を受ける酒井秋子会長（中右）、矢沢千代副会長（中左）、酒井環境整備課長（左）

明和地区の夏休み企画
「お寺に泊まろう」開催

8月4〜5日、梁取地区の成法寺で明和自治振興会主催の企画「お寺に泊まろう」が開催され、明和小学生の児童13名が参加しました。

お寺では、和尚様の法話、写仏・座禅体験など経験をしました。特に座禅では、子ども達が痛みを我慢しながら30分間足を組み、あたりは静まり返っていました。

子ども達は最後に「和尚様の話や座禅が良かった」、「みんなで夕食を作ったり、お泊りが楽しかった」など感想を話しました。

子どもたちにとって夏の思い出になったとともに、親元を離れて泊まることで、子どもの成長に繋がったことと思います。



▲2日目の最後にみんなで成法寺の前で記念撮影する明和小学校の児童達